

景況調査

報告書

No. 99

令和5年4月～6月
令和5年7月～9月

実績
見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

令和5年度第1四半期(令和5年4月～6月)景況調査

1. 調査時点 令和5年7月1日～7月25日

2. 調査対象

(1) 対象地区 蒲郡市内
 (2) 対象(回答)企業 97 [90 企業、7団体] 三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	50 (3)	7 (2)	15 (1)	11	6 (1)	8	97 (7)

※ () は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比では-7.2、前期実績(-15.0)に比較すると7.8ポイントと上昇の傾向が見られ、前年同期比では、0.0、前期実績(-6.6)に比較すると6.6ポイントと上昇の傾向が見られた。売上DI値は、前期比で-7.2、前期実績(-19.8)と比較すると12.6ポイントと上昇の傾向が見られた。収益DI値は、前期比で-15.6、前期実績(-32.1)と比較すると16.5ポイントと上昇の傾向が見られた。総合判断来期見通しは-11.3、今期の実績(全業種(当期実績)前期比-7.2)と比較すると-4.1ポイントと横バイの傾向が見られた。

「製造業」のうち食料品は売上は増加傾向も原料高に加えて、エネルギーコスト等も上昇しており利益が圧縮された。織物は製造品目により受注・稼働状況は異なるが、コスト増で利幅が圧迫。価格転嫁も思うようには進まず。漁網・ロープは前年同月では生産・金額とも100%を超えているが、コロナ前水準からは5～10%程度の売上減少。エネルギー・原材料価格の高騰が利幅を圧迫している。鉄工のうち日本工作機械工業会の受注総額は4月1,326億円、5月1,195億円、6月1,211億円。対前年比で内需・外需とも1～2割程度減少に転じた。当地区でも同様の傾向にある。トヨタ国内日当たり生産は2月以降から回復傾向で1万3千～4千台前後で好調に推移。受注残の早期解消に向けた挽回生産が本格化した。化学工業は中国市況に合わせて不安定な状況が続いた。プラスチックは取引先業界ごとに業況は様々だが、コロナ前の水準に比べやや不安定な傾向にある。

「建設業」は公共工事は、年度初めであるが順調に出件。

「卸売業」のうち、繊維卸は<産業資材>車両用基布は1～3月より更に改善し、製品によってコロナ前水準まで回復。他の資材は車両用途ほどの改善は見られない。<インテリア>4～6月通して昨年を下回る。物価高騰の影響は大きく、値上げによる数量減少の状況。<アパレル>インバウンド・イベント・祭りの再開等でビー系の生地の動き良く、特にシャンタンの動きが良い。

「小売業」はインフレによる消費意欲減退+コストアップの影響もあり、売上・収益ともに厳しい状況。なお、家族葬対応の小規模葬儀場が増えるなど消費志向の変化も進む。飲食はコロナ禍の自粛傾向が和らぎ売上は回復傾向も、コストアップの影響+会社利用や冠婚葬祭等の会合の減少などで、宴会利用を想定した店舗に厳しい状況も。石油等その他小売は原油価格(WTI期近物/1バレル)は欧米銀の信用不安で60ドル台半ばまで下落した後、他OPEC自主減産やインフレ高止まり等で70ドル台で推移。

「サービス業」のうち旅館関係はコロナ5類移行後初の長期連休を含め4～6月期はコロナ前の8割に回復。全国旅行支援の後押しも。潮干狩り・ラグーナイベントで一定の宿泊があった。インバウンドは欧米系の富裕層・個人利用があり、大河ドラマによる国内個人旅行もあった。なお6月の台風で第1源泉貯留タンクが倒壊し第2源泉で代用しているが補修が必要。

「運輸通信業」 貨物輸送では経済の正常化に伴い、前年同期比・前期比で増加傾向となる事業所もあるなど、ある程度安定した状況も、人手不足など業界全体の課題と向き合う。

設備投資状況は、37事業所(57件)で設備投資が実施され「生産設備(28.1%)」等に投資された。来期は34事業所(53件)が「生産設備(37.7%)」等の設備投資を計画している。

経営上の問題点は、売上の停滞・減少、原材料(燃料)高、利幅の縮小、人手不足、人件費の増加、が項目別で上位を占めている。

当地区において 令和5年度第1四半期は、前期比では横バイから下降傾向となった。業種毎では、製造業関連では内需・外需ともに動きが鈍い一方、インフレ等による消費減退や消費志向の変化で小売業は不振、コロナ禍からの回復が顕著なサービス業・運輸通信業は好調であった。経営上の問題点では、売上減少が約1割程度低下している反面、その他の課題は前回同水準のまま原材料高(利益縮小)、人手不足、人件費高騰等の課題が継続的に上位に入っている。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

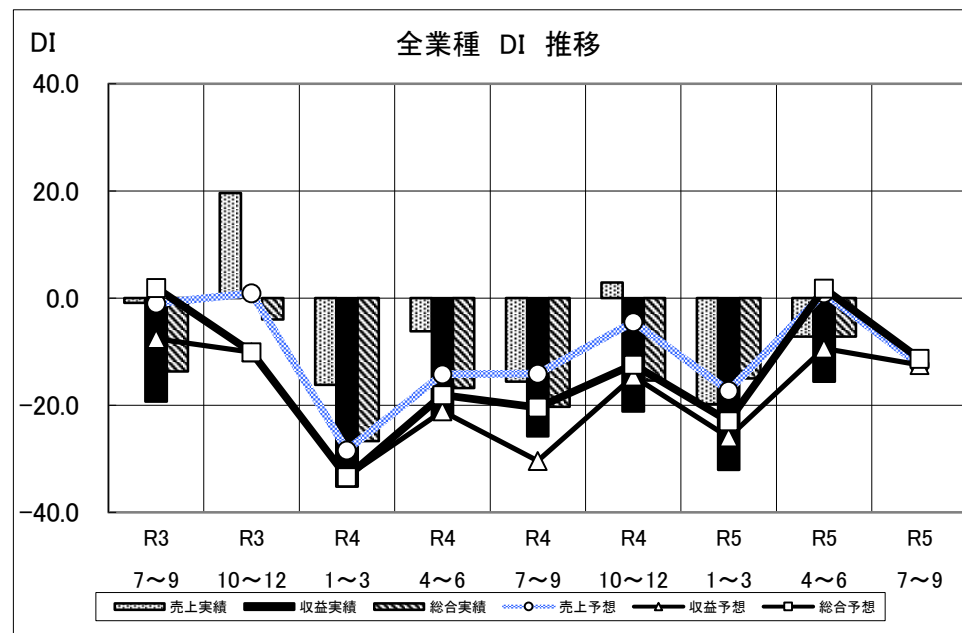
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月～6月 に比べて	前期比 令和5年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月～9月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	13.4	-7.2	-12.4	R4.4～6月実績	1.7	-6.2	-23.9	-22.2	-15.0	-16.8	-20.4
②製品・商品在庫	-13.7	-12.8	-9.6	R4.7～9月実績	-5.6	-15.6	-31.5	-25.8	-21.4	-20.3	-12.4
③資金繰り	-9.3	-8.3	-7.2	R4.10～12月実績	-11.6	2.9	-36.5	-21.2	-22.1	-15.4	-23.0
④採算(収益)	-2.1	-15.6	-12.5	R5.1～3月実績	-3.8	-19.8	-11.3	-32.1	-6.6	-15.0	1.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	3.2	6.3	2.1	R5.4～6月実績	13.4	-7.2	-2.1	-15.6	0.0	-7.2	-11.3
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-7.2	-11.3								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-0.9	19.6	-16.2	-6.2	-15.6	2.9	-19.8	-7.2	-12.4
収益	-19.3	0.0	-35.2	-22.2	-25.8	-21.2	-32.1	-15.6	-12.5
総合	-13.7	-4.0	-26.7	-16.8	-20.3	-15.4	-15.0	-7.2	-11.3

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少) 採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)
 製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加) 従業員数 :DI=(増加)-(減少)
 資金繰り :DI=(好転)-(悪化) 業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き

DIが0 ⇒ 景気横ばい

DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は-6.0、前期実績(1~3月期-14.3)に比して8.3ポイントの上昇、収益DI値は-18.0、前期実績(1~3月期-36.7)に比して18.7ポイントの上昇、総合判断DI値は-14.0、前期実績(1~3月期-10.2)に比して-3.8ポイントの横バイとなった。

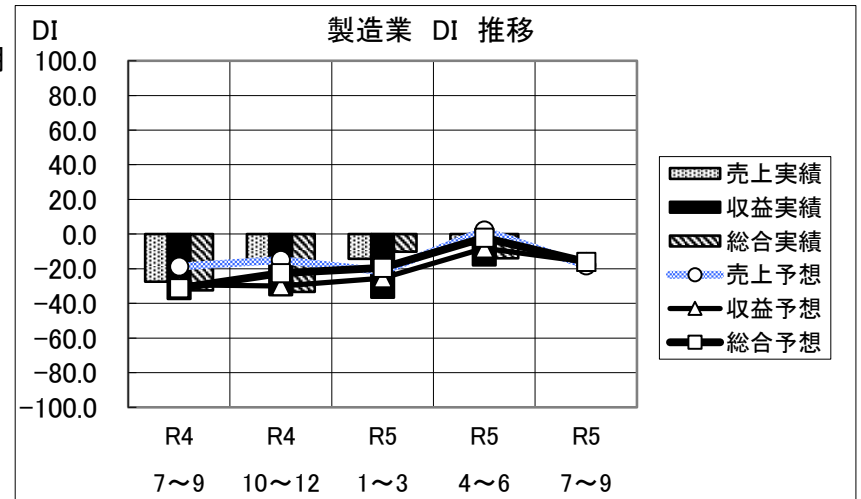
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-18.0ポイントの下降、収益DI値は-16.0ポイントの下降、総合判断DI値は-16.0ポイントの下降となっている。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	-6.0	-18.0
②製品・商品在庫	-8.0	-8.0	-4.0
③資金繰り	-14.0	-16.0	-12.0
④採算(収益)	-6.0	-18.0	-16.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	18.3	20.4	4.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-10.0	-14.0	-16.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-27.5	-15.7	-14.3	-6.0	-18.0
収益	-37.5	-35.3	-36.7	-18.0	-16.0
総合	-32.5	-33.4	-10.2	-14.0	-16.0

[食料品]

売上DI値は33.3、前期実績(1~3月期-100.0)に比して133.3ポイントの上昇、収益DI値は-16.6、前期実績(1~3月期-100.0)に比して83.4ポイントの上昇、総合判断DI値は-16.6、前期実績(1~3月期-80.0)に比して63.4ポイントの上昇となった。売上は増加傾向も原料高に加えて、エネルギーコスト等も上昇しており利益が圧縮された。

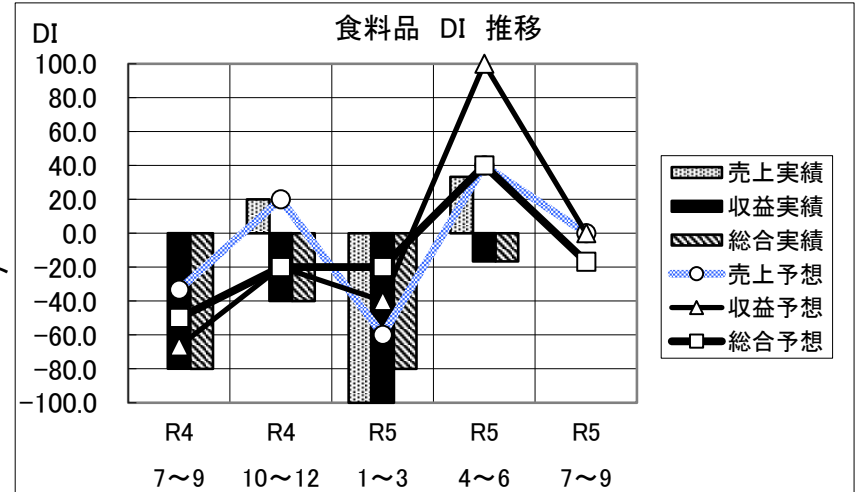
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は-16.7ポイントの下降となっている。コスト高騰が劇的に改善する見込みはないため、製品値上にどこまで市場が対応できるかが鍵になる。

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	33.3	33.3	0.0
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-16.7
③資金繰り	-16.7	0.0	0.0
④採算(収益)	-16.6	-16.6	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.6	33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-16.6	-16.7



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	0.0	20.0	-100.0	33.3	0.0
収益	-80.0	-40.0	-100.0	-16.6	0.0
総合	-80.0	-40.0	-80.0	-16.6	-16.7

【織物】

売上DI値は0.0、前期実績(1~3月期-25.0)に比して25.0ポイントの上昇、収益DI値は-100.0、前期実績(1~3月期-50.0)に比して-50.0ポイントの下降、総合判断DI値は0.0、前期実績(1~3月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイとなった。製造品目により受注・稼働状況は異なるが、コスト増で利幅が圧迫。価格転嫁も思うようには進まず。

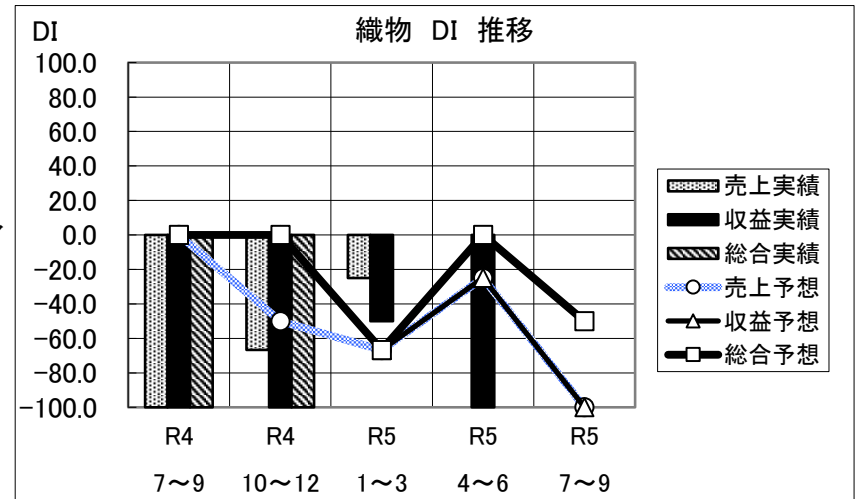
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-100.0ポイントの下降、収益DI値は-100.0ポイントの下降、総合判断DI値は-50.0ポイントの下降となっている。景況は不透明な状況にある。

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	0.0	-100.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-50.0	-50.0	-50.0
④採算(収益)	-100.0	-100.0	-100.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	50.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	-50.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-100.0	-66.7	-25.0	0.0	-100.0
収益	-100.0	-100.0	-50.0	-100.0	-100.0
総合	-100.0	-100.0	0.0	0.0	-50.0

【漁網・ロープ】

売上DI値は16.7、前期実績(1~3月期60.0)に比して-43.3ポイントの下降、収益DI値は-16.7、前期実績(1~3月期-20.0)に比して3.3ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0、前期実績(1~3月期40.0)に比して-40.0ポイントの下降となった。前年同月では生産・金額とも100%を超えているが、コロナ前水準からは5~10%程度の売上減少。エネルギー・原材料価格の高騰が利幅を圧迫して

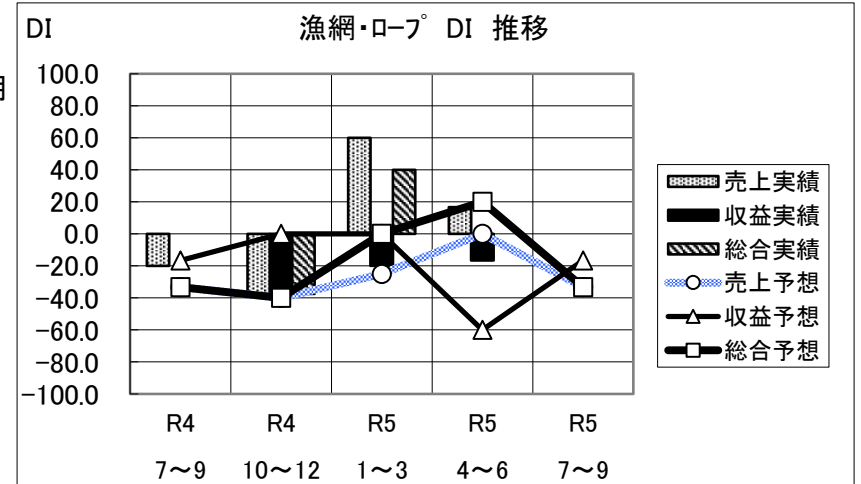
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-33.3ポイントの下降、収益DI値は-16.6ポイントの下降、総合判断DI値は-33.3ポイントの下降となっている。造船・船舶は比較的安定した見込みだが、漁業資材・産業資材等は減少傾向。また運送事業者の人手不足に備えた運賃交渉が始まり更にコストアップの見込み。

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	16.7	16.7	-33.3
②製品・商品在庫	16.6	33.3	16.6
③資金繰り	-16.7	-16.7	-16.7
④採算(収益)	16.7	-16.7	-16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	33.3	16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	16.6	0.0	-33.3



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-20.0	-37.5	60.0	16.7	-33.3
収益	0.0	-37.5	-20.0	-16.7	-16.6
総合	0.0	-37.5	40.0	0.0	-33.3

[鉄工]

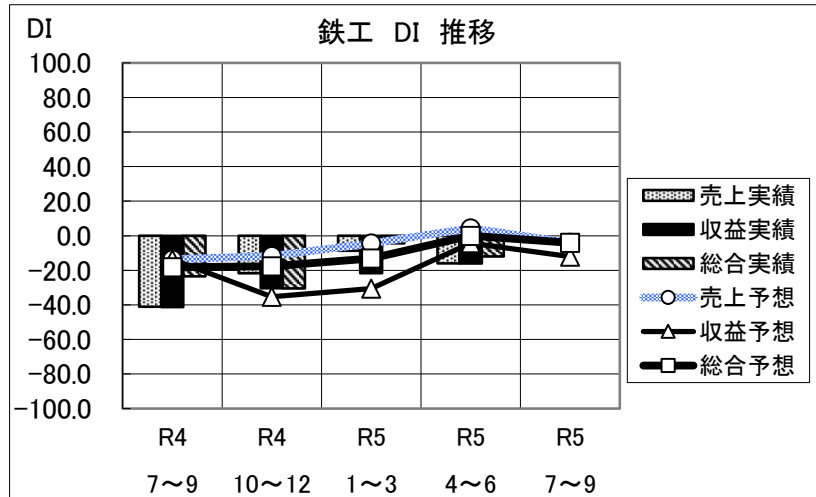
売上DI値は-16.0、前期実績(1~3月期-8.7)に比して-7.3ポイントの下降、収益DI値は-16.0、前期実績(1~3月期-21.7)に比して5.7ポイントの横バイ、総合判断DI値は-12.0、前期実績(1~3月期-4.4)に比して-7.6ポイントの下降となった。日本工作機械工業会の受注総額は4月1,326億円、5月1,195億円、6月1,211億円。対前年比で内需・外需とも1~2割程度減少に転じた。当地区でも同様の傾向にある。トヨタ国内日当たり生産は2月以降から回復傾向で1万3千~4千台前後で好調に推移。受注残の早期解消に向けた挽回生産が本格化した。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-4.0ポイントの横バイ、収益DI値は-12.0ポイントの下降、総合判断DI値は-4.0ポイントの横バイとなっている。

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	-16.0	-4.0
②製品・商品在庫	-4.0	-4.0	0.0
③資金繰り	-4.0	-12.0	-8.0
④採算(収益)	0.0	-16.0	-12.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.7	12.5	4.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-4.0	-12.0	-4.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-41.1	-21.7	-8.7	-16.0	-4.0
収益	-41.2	-30.4	-21.7	-16.0	-12.0
総合	-23.5	-30.5	-4.4	-12.0	-4.0

[化学・プラスチック]

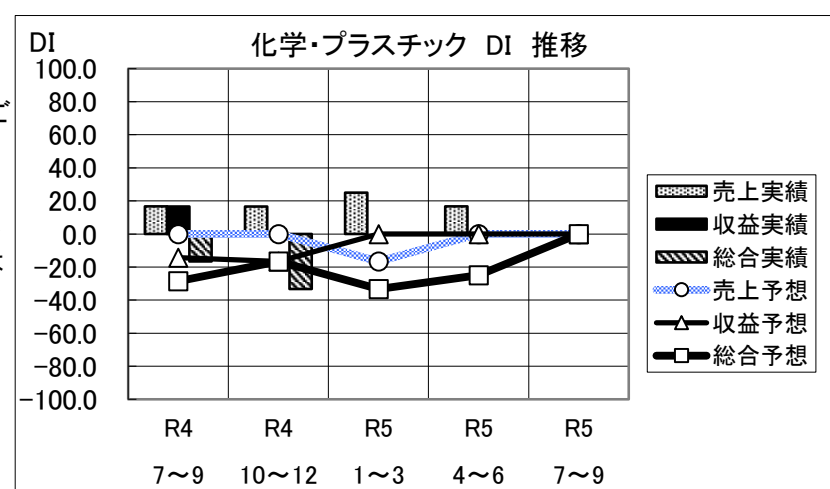
売上DI値は16.7、前期実績(1~3月期25.0)に比して-8.3ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績(1~3月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0、前期実績(1~3月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイとなった。<化学>中国市況に合わせて不安定な状況が続いた。<プラスチック>取引先業界ごとに業況は様々だが、コロナ前の水準に比べやや不安定な傾向にある。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。<化学>中国市況により業況が変化する見込み。<プラスチック>本格的な回復に向けては慎重に推移を見守る必要がある。

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	16.7	0.0
②製品・商品在庫	-16.7	-33.3	-33.3
③資金繰り	-16.7	-16.7	-16.7
④採算(収益)	0.0	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	33.3	33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.7	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	16.7	16.6	25.0	16.7	0.0
収益	16.6	0.0	0.0	0.0	0.0
総合	-16.6	-33.3	0.0	0.0	0.0

建設業

売上DI値は-42.8、前期実績(1~3月期-12.5)に比して-30.3ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績(1~3月期-25.0)に比して25.0ポイントの上昇、総合判断DI値は-14.3、前期実績(1~3月期12.5)に比して-26.8ポイントの下降となった。公共工事は、年度初めであるが順調に出件。

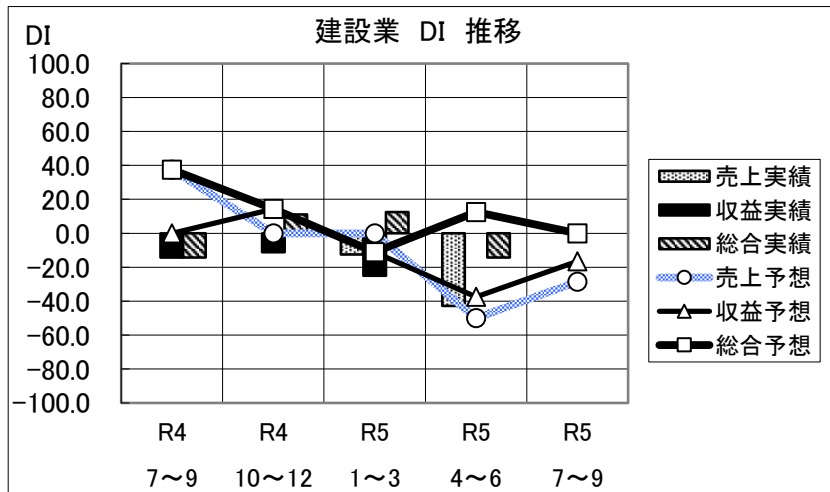
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-28.6ポイントの下降、収益DI値は-16.6ポイントの下降、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。公共工事、民間工事とも順調に推移すると予想。

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-42.8	-28.6
②製品・商品在庫	-16.7	0.0	0.0
③資金繰り	14.3	14.3	14.3
④採算(収益)	16.6	0.0	-16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	-14.3	14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	28.6	-14.3	0.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	0.0	0.0	-12.5	-42.8	-28.6
収益	-14.3	-11.1	-25.0	0.0	-16.6
総合	-14.3	11.1	12.5	-14.3	0.0

卸売業

売上DI値は13.3、前期実績(1~3月期-57.1)に比して70.4ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(1~3月期-50.0)に比して50.0ポイントの上昇、総合判断DI値は20.0、前期実績(1~3月期-35.7)に比して55.7ポイントの上昇となった。

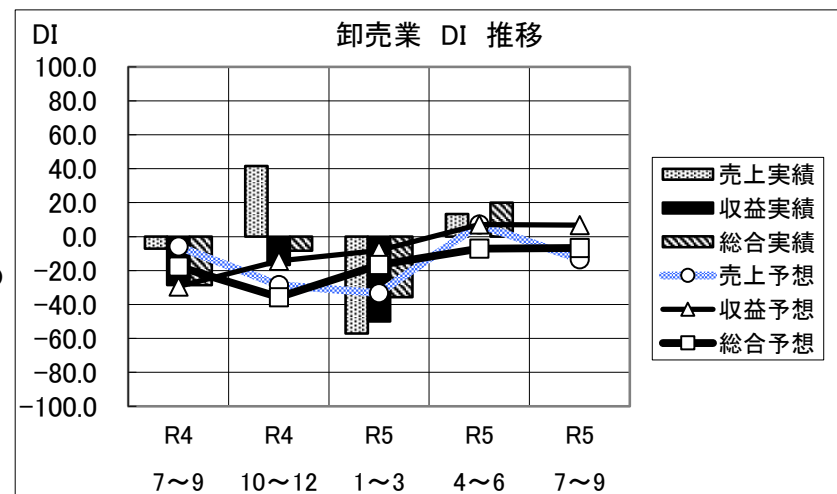
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-13.3ポイントの下降、収益DI値は6.7ポイントの上昇、総合判断DI値は-6.7ポイントの下降となっている。

卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	6.7	13.3	-13.3
②製品・商品在庫	-53.3	-50.0	-35.7
③資金繰り	-20.0	-13.3	-13.3
④採算(収益)	-6.7	0.0	6.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-6.6	0.0	6.7
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	20.0	-6.7



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-7.1	41.6	-57.1	13.3	-13.3
収益	-28.6	-16.7	-50.0	0.0	6.7
総合	-28.6	-8.3	-35.7	20.0	-6.7

【繊維卸】

売上DI値は7.1、前期実績(1~3月期-53.8)に比して60.9ポイントの上昇、収益DI値は-7.1、前期実績(1~3月期-53.8)に比して46.7ポイントの上昇、総合判断DI値は14.3、前期実績(1~3月期-38.5)に比して52.8ポイントの上昇となった。<産業資材>車両用基布は1~3月より更に改善し、製品によってコロナ前水準まで回復。他の資材は車両用途ほどの改善は見られない。<インテリア>4~6月通して昨年を下回る。物価高騰の影響は大きく、値上げによる数量減少の状況。<アパレル>インバウンド・イベント・祭りの再開等でドビー系の生地の動き良く、特にシャンタンの動きが良い。

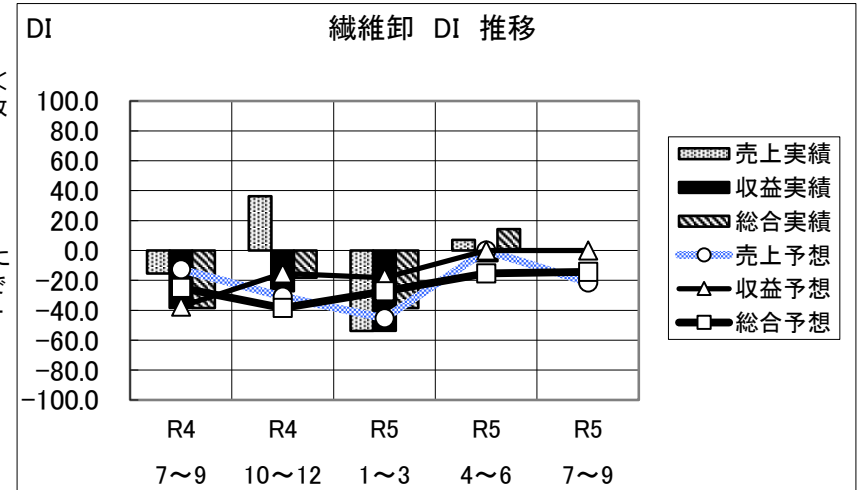
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-21.4ポイントの下降、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は-14.3ポイントの下降となっている。<産業資材>部品不足の解消が進み、車両用基布は更に改善する見込み。他の資材用途は原材料・加工賃の高騰により価格改定を進めており苦戦を強いられる見込み。<インテリア>当初季節物の動きは鈍かったが7月以降の猛暑で夏物が動き4~6月に比べ改善傾向。9月以降は秋冬物の動きがあるが状況はまだ不透明。<アパレル>引続きドビー生地の受注が見込まれる。生産スペースの確保が重要になる。

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	7.1	-21.4
②製品・商品在庫	-57.2	-53.8	-38.5
③資金繰り	-21.4	-14.3	-14.3
④採算(収益)	-14.3	-7.1	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	-7.1	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-7.2	14.3	-14.3



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-15.4	36.3	-53.8	7.1	-21.4
収益	-38.5	-27.3	-53.8	-7.1	0.0
総合	-38.5	-18.2	-38.5	14.3	-14.3

小売業

売上DI値は-36.4、前期実績(1~3月期-11.1)に比して-25.3ポイントの下降、収益DI値は-63.6、前期実績(1~3月期-27.7)に比して-35.9ポイントの下降、総合判断DI値は-45.5、前期実績(1~3月期-11.1)に比して-34.4ポイントの下降となった。インフレによる消費意欲減退+コストアップの影響もあり、売上・収益ともに厳しい状況。なお、家族葬対応の小規模葬儀場が増えるなど消費志向の変化も進む。

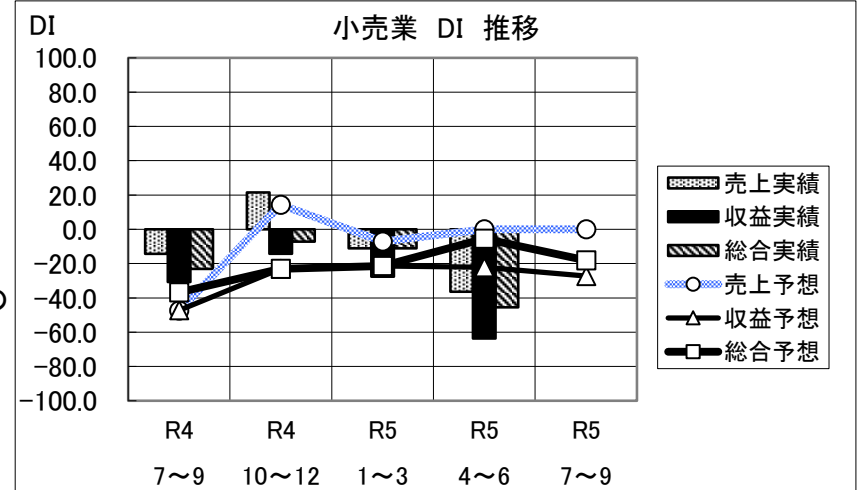
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-27.3ポイントの下降、総合判断DI値は-18.2ポイントの下降となっている。円安・コストアップの継続による消費意欲の低迷はあるが、ポストコロナの消費回復に期待したい。

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-27.3	-36.4	0.0
②製品・商品在庫	-9.1	-9.1	-9.1
③資金繰り	-18.2	-18.2	0.0
④採算(収益)	-45.4	-63.6	-27.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-27.3	-27.3	-18.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-18.2	-45.5	-18.2



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-14.3	21.5	-11.1	-36.4	0.0
収益	-30.8	-14.3	-27.7	-63.6	-27.3
総合	-23.1	-7.2	-11.1	-45.5	-18.2

[飲食]

売上DI値は0.0、前期実績(1~3月期100.0)に比して-100.0ポイントの下降、収益DI値は-33.3、前期実績(1~3月期-33.4)に比して0.1ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0、前期実績(1~3月期33.3)に比して-33.3ポイントの下降となった。コロナ禍の自粛傾向が和らぎ売上は回復傾向も、コストアップの影響+会社利用や冠婚葬祭等の会合の減少などで、宴会利用を想定した店舗に厳しい状況も。

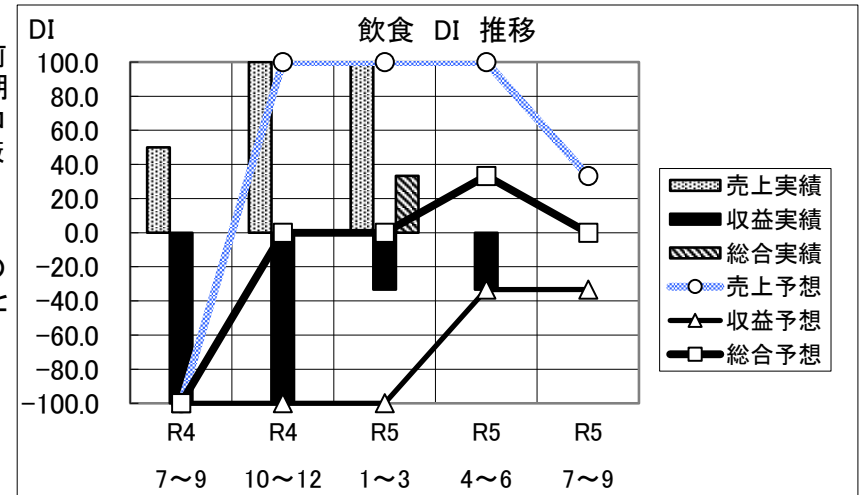
向こう3カ月の見通し

売上DI値は33.3ポイントの上昇、収益DI値は-33.3ポイントの下降、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。コロナ5類移行後で久々の夏休みを迎えるが、夏季イベント等の来場者増と家族利用等の増加を期待している。

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	33.4	0.0	33.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	33.3
④採算(収益)	0.0	-33.3	-33.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	-33.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	33.3	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	50.0	100.0	100.0	0.0	33.3
収益	-100.0	-100.0	-33.4	-33.3	-33.3
総合	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0

[石油等その他小売]

売上DI値は-60.0、前期実績(1~3月期16.6)に比して-76.6ポイントの下降、収益DI値は-80.0、前期実績(1~3月期16.6)に比して-96.6ポイントの下降、総合判断DI値は-60.0、前期実績(1~3月期0.0)に比して-60.0ポイントの下降となった。原油価格(WTI期近物/1バレル)は欧米銀の信用不安で60ドル台半ばまで下落した後、他OPEC自主減産やインフレ高止まり等で70ドル台で推移。

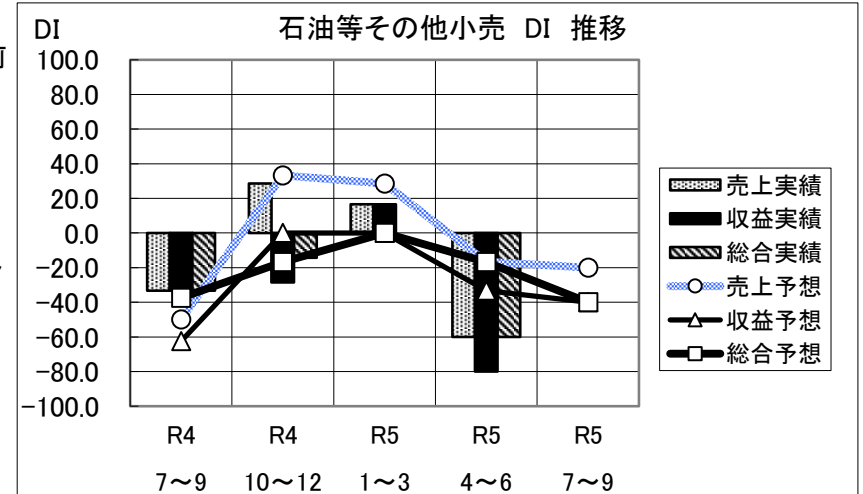
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-20.0ポイントの下降、収益DI値は-40.0ポイントの下降、総合判断DI値は-40.0ポイントの下降となっている。中国の経済活動正常化と先進国中心の世界経済の清涼率低下等で

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	-60.0	-20.0
②製品・商品在庫	-20.0	-20.0	-20.0
③資金繰り	-20.0	-20.0	-20.0
④採算(収益)	-60.0	-80.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-20.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	-60.0	-40.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-33.3	28.6	16.6	-60.0	-20.0
収益	-33.3	-28.6	16.6	-80.0	-40.0
総合	-33.3	-14.3	0.0	-60.0	-40.0

サービス業

売上DI値は16.7、前期実績(1~3月期-33.4)に比して50.1ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(1~3月期-33.4)に比して33.4ポイントの上昇、総合判断DI値は33.3、前期実績(1~3月期-44.5)に比して77.8ポイントの上昇となった。

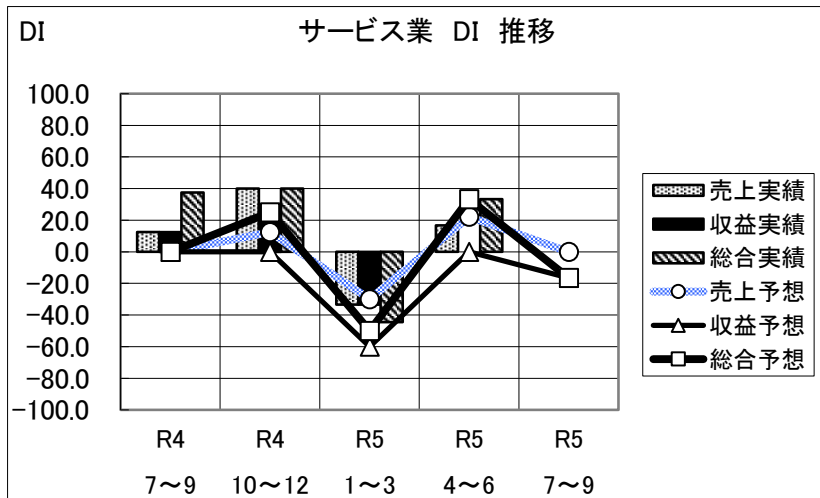
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-16.6ポイントの下降、総合判断DI値は-16.6ポイントの下降となっている。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	16.7	0.0
②製品・商品在庫	16.7	16.7	-16.7
③資金繰り	33.3	50.0	0.0
④採算(収益)	50.0	0.0	-16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.7	16.7	16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	50.0	33.3	-16.6



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	12.5	40.0	-33.4	16.7	0.0
収益	12.5	30.0	-33.4	0.0	-16.6
総合	37.5	40.0	-44.5	33.3	-16.6

【旅館】

売上DI値は50.0、前期実績(1~3月期-75.0)に比して125.0ポイントの上昇、収益DI値は25.0、前期実績(1~3月期-75.0)に比して100.0ポイントの上昇、総合判断DI値は75.0、前期実績(1~3月期-75.0)に比して150.0ポイントの上昇となった。コロナ5類移行後初の長期連休を含め4~6月期はコロナ前の8割に回復。全国旅行支援の後押しも。潮干狩り・ラグーナイベントで一定の宿泊があった。インバウンドは欧米系の富裕層・個人利用があり、大河ドラマによる国内個人旅行もあった。なお6月の台風で第1源泉貯留タンクが倒壊し第2源泉で代用しているが補修が必要。

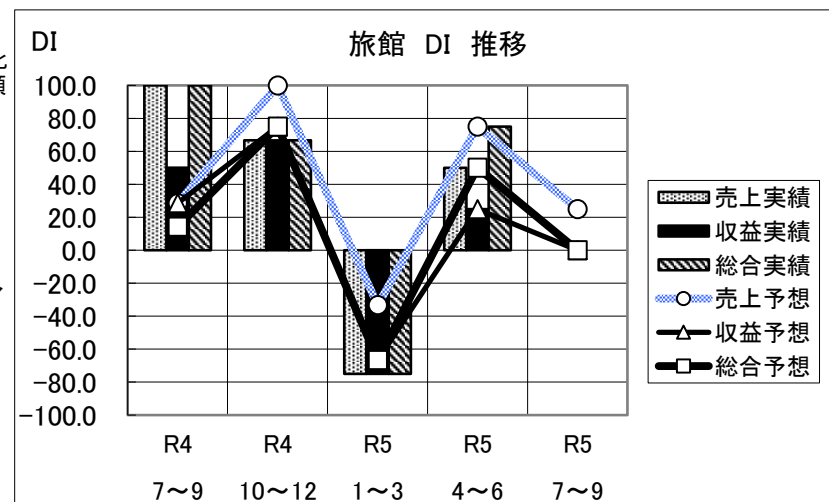
向こう3カ月の見通し

売上DI値は25.0ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。間際予約が進み、例年に比べお盆の動きが鈍い。猛暑・自然災害等の影響と見られるがファミリー層へ期待。好調なラグーナテンボスのプール客からの波及効果が期待される。名古屋圏で欧米系インバウンドが増加、ジブリパーク新エリア(11月)等の効果もあるが受体制の人手不足が課題。コロナ第9波の影響を懸念。

(旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	100.0	50.0	25.0
②製品・商品在庫	25.0	25.0	-25.0
③資金繰り	50.0	75.0	0.0
④採算(収益)	100.0	25.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	25.0	25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	100.0	75.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	100.0	66.7	-75.0	50.0	25.0
収益	50.0	66.7	-75.0	25.0	0.0
総合	100.0	66.7	-75.0	75.0	0.0

運輸通信業

売上DI値は0.0、前期実績(1~3月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイ、収益DI値は12.5、前期実績(1~3月期12.5)に比して0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は12.5、前期実績(1~3月期12.5)に比して25.0ポイントの上昇となった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は12.5ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は12.5ポイントの上昇となっている。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	25.0	0.0	12.5
②製品・商品在庫	0.0	-14.3	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	37.5	12.5	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-50.0	-12.5	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	25.0	12.5	12.5

[旅客・貨物輸送・水運]

売上DI値は14.3、前期実績(1~3月期14.3)に比して0.0ポイントの横バイ、収益DI値は14.3、前期実績(1~3月期14.3)に比して0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は14.3、前期実績(1~3月期0.0)に比して14.3ポイントの上昇となった。経済の正常化に伴い、前年同期比・前期比で増加傾向となる事業所もあるなど、ある程度安定した状況も、人手不足など業界全体の課題と向き合う。

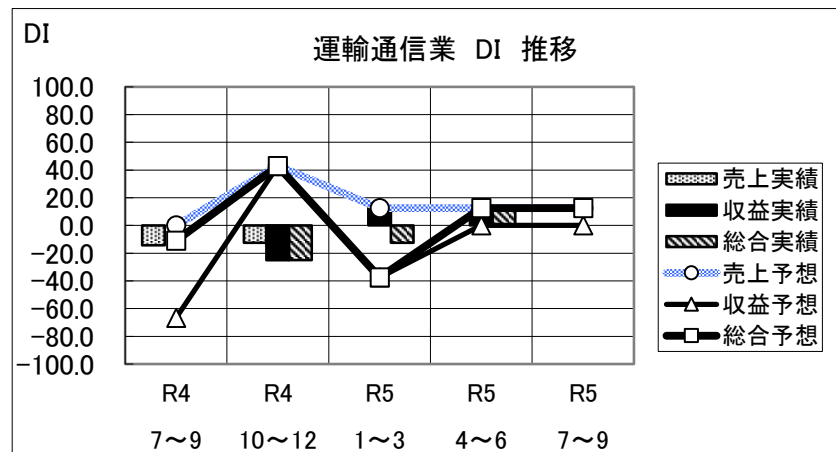
向こう3カ月の見通し

売上DI値は14.3ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は14.3ポイントの上昇となっている。景況感は横ばいから弱含みの状況だが、概ね横ばいの見込みとなっている。

(旅客・貨物輸送・水運)

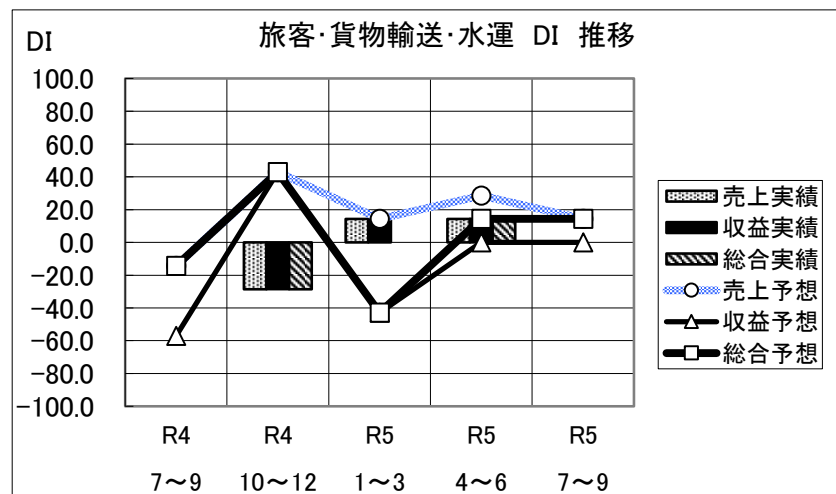
(DI 単位:%)

	前年同期比 令和4年4月~6月 に比べて	前期比 令和5年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和5年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	42.8	14.3	14.3
②製品・商品在庫	0.0	-16.7	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	28.5	14.3	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-42.9	-14.3	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	28.5	14.3	14.3



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-14.3	-12.5	0.0	0.0	12.5
収益	0.0	-25.0	12.5	12.5	0.0
総合	0.0	-25.0	-12.5	12.5	12.5

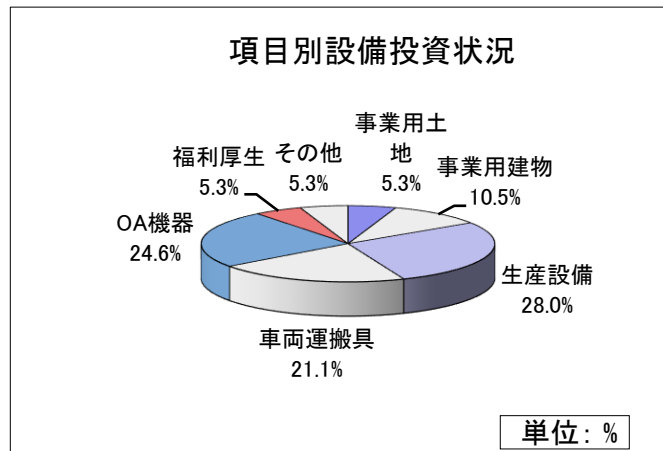
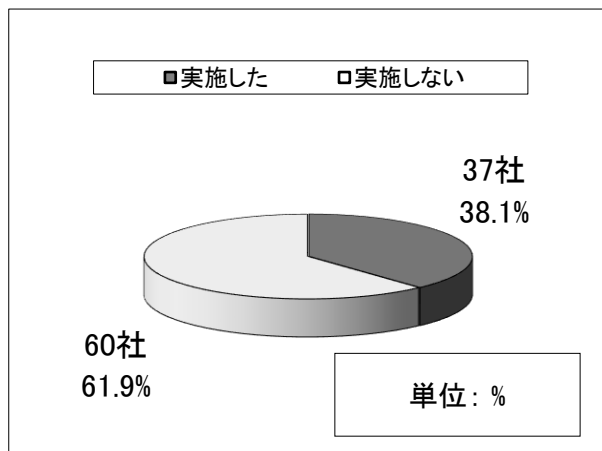


<業況判断DIの推移>

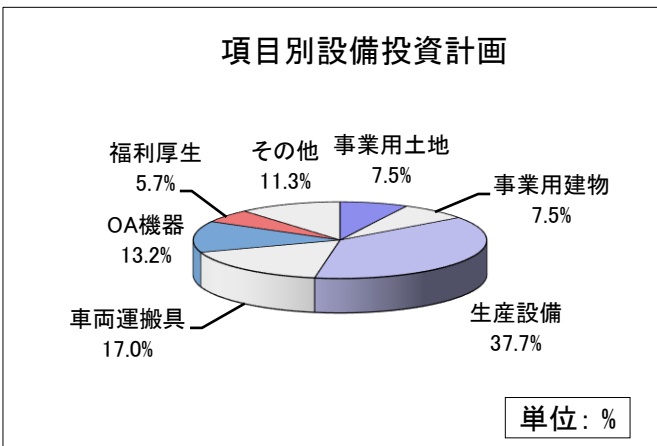
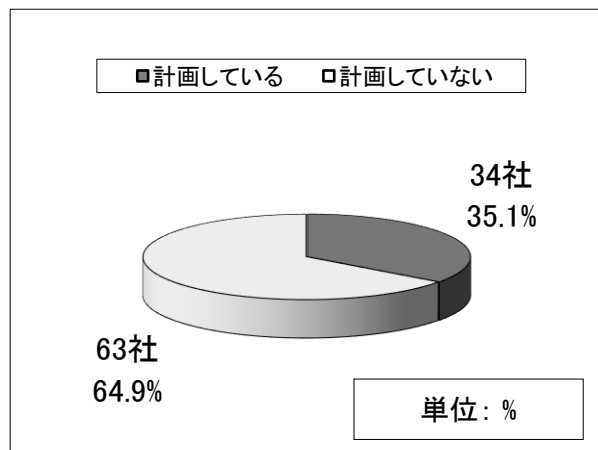
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	0.0	-28.6	14.3	14.3	14.3
収益	0.0	-28.6	14.3	14.3	0.0
総合	0.0	-28.6	0.0	14.3	14.3

7. 設備投資動向

＜今期 R5.4～6＞ 設備投資実施状況 全業種＞



＜来期 R5.7～9＞ 設備投資実施状況 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今期	来期見通し
事業用土地	3	4
事業用建物	6	4
生産設備	16	20
車両運搬具	12	9
OA機器	14	7
福利厚生	3	3
その他	3	6
計	57	53

(単位:件)

◎今期・来期 設備投資実施、計画動向

		全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期	R5.4～6	37	23	1	3	2	3	5
2. 来期	R5.7～9	34	23	1	2	2	2	4

(単位:事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 97 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	35 36.1%
2	原材料(燃料)高	33 34.0%
3	利幅の縮小	26 26.8%
4	人手不足	18 18.6%
5	人件費の増加	17 17.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 50 社	売上の停滞・減少 19 社 38.0%	原材料(燃料)高 19 社 38.0%	利幅の縮小 12 社 24.0%
建設業 7 社	人件費の増加 3 社 42.9%	利幅の縮小 2 社 28.6%	売上の停滞・減少 1 社 14.3%
卸売業 15 社	売上の停滞・減少 8 社 53.3%	利幅の縮小 5 社 33.3%	原材料(燃料)高 5 社 33.3%
小売業 11 社	人手不足 6 社 54.5%	原材料(燃料)高 4 社 36.4%	売上の停滞・減少 3 社 27.3%
サービス業 6 社	利幅の縮小 4 社 66.7%	売上の停滞・減少 3 社 50.0%	競争激化 3 社 50.0%
運輸通信業 8 社	原材料(燃料)高 3 社 37.5%	人件費の増加 2 社 25.0%	人手不足 2 社 25.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No. 99

番号	調査項目	単位	R05.08報告	基準日	R05.02報告	基準日	R05.02報告	基準日	R04.11報告	基準日	出典
1	人口	人	78,318	R5.7.1	78,443	R5.4.1	78,666	R5.1.1	78,875	R4.10.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		3,387		3,355		3,324		3,313		
2	世帯数	世帯	33,426	R5.4.1	33,392	R5.4.1	33,333	R5.1.1	33,363	R4.10.1	"
	(うち外国人)		1,611		1,606		1,593		1,579		
3	15才～65才生産人口	人			45,883	R5.4.1	46,020	R5.1.1	46,087	R4.7.1	"
	(うち外国人)				2,746		2,705		2,678		
4	全国完全失業率	%	2.6	R5.5月	2.6	R5.2月	2.5	R4.11月	2.6	R4.9月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%			2.0	R5.1～3	1.8	R4.10～12月	2.0	R4.7～9月	愛知県 「あいちの就業状況」
5	全国有効求人倍率	倍	1.30	R5.6月	1.32	R5.3月	1.35	R4.12月	1.34	R4.9月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.65	R5.6月	0.75	R5.2月	0.85	R4.12月	0.83	R4.9月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶を除く前年同月比%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整後(前期比)	消費支出 前年同月比%(実)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	528.8	2.9	1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	533.4	0.0	▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	526.0	▲ 0.9	▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	521.9	0.7	▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	528.4	2.5	▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	519.2	-	▲ 1.7	-
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	514.9	0.9	0.1	-
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	517.7	2.0	▲ 1.0	588.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	521.3	1.7	0.4	582.1
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	525.6	1.0	▲ 0.4	586.2
2006年度	275	4.1	1.06	5.0	1,285,246	529.0	1.4	▲ 2.2	561.9
2007年度	257	3.9	1.04	2.3	1,035,598	530.9	1.2	0.9	532.0
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 16.6	1,039,214	509.5	▲ 3.4	▲ 1.9	470.1
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 15.4	775,277	492.0	▲ 2.2	▲ 0.2	488.0
2010年度	334	5.1	0.52	19.4	819,020	499.4	3.3	0.3	460.1
2011年度	284	4.5	0.65	4.2	841,246	494.0	0.5	▲ 2.2	475.3
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 7.1	893,002	494.4	0.8	1.1	521.0
2013年度	265	4.0	0.93	10.6	987,254	507.3	2.6	1.0	569.2
2014年度	236	3.6	1.09	8.0	880,470	518.2	▲ 0.4	▲ 2.9	529.7
2015年度	222	3.4	1.23	▲ 1.2	920,537	532.9	1.3	▲ 2.3	493.8
2016年1月	215	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	217	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	135.8	0.7	▲ 1.2	27.5
3月	214	3.2	1.30	▲ 9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	214	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	212	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	134.2	▲ 0.2	▲ 1.1	22.3
6月	208	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	201	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	208	3.1	1.37	0.2	82,242	132.6	0.2	▲ 4.6	22.3
9月	202	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	198	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	200	3.1	1.41	24.5	85,051	141.6	0.2	▲ 1.5	27.3
12月	202	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	202	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	192	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	136.2	0.8	▲ 3.8	31.2
3月	187	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	187	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	206	3.1	1.49	8.6	78,481	136.0	0.3	▲ 0.1	23.7
6月	190	2.8	1.51	3.4	87,456			▲ 2.3	31.5
7月	189	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	185	2.8	1.52	19.7	80,562	135.7	0.8	0.6	23.3
9月	188	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8
10月	184	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	180	2.7	1.56	5.8	84,703	144.4	0.1	▲ 1.7	25.8
12月	181	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2
2018年1月	164	2.4	1.59	8.7	66,358			▲ 2.0	24.3
(平成30年)2月	170	2.5	1.58	7.8	69,071	138.9	0.1	0.1	29.6
3月	172	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616			▲ 0.2	43.8
4月	172	2.5	1.59	11.4	84,226			▲ 1.3	22.5
5月	155	2.2	1.60	15.3	79,539	137.9	0.3	▲ 3.9	23.6
6月	167	2.4	1.62	▲ 4.2	81,275			▲ 1.2	29.2
7月	170	2.4	1.63	11.3	82,615			0.1	28.1
8月	166	2.4	1.63	4.9	81,860	135.2	▲ 0.5	▲ 2.8	23.3
9月	161	2.3	1.64	▲ 5.4	81,903			▲ 1.6	30.8
10月	166	2.4	1.62	6.1	83,330			▲ 0.3	26.1
11月	169	2.5	1.63	4.0	84,213	144.4	▲ 0.1	▲ 0.6	27.9
12月	164	2.4	1.63	▲ 4.0	78,364			0.1	25.0
2019年1月	172	2.5	1.63	▲ 8.5	67,087			▲ 2.0	24.9
(平成31年)2月	160	2.3	1.63	▲ 3.7	71,966	138.8	0.2	▲ 1.7	30.0
3月	174	2.5	1.62	▲ 0.2	76,558			▲ 2.1	41.7
4月	168	2.4	1.63	▲ 6.0	79,389			▲ 1.3	23.0
(令和元年)5月	162	2.4	1.62	▲ 10.1	72,581	138.4	0.3	▲ 4.0	24.7
6月	161	2.3	1.61	0.9	81,541			▲ 2.7	29.0
7月	154	2.2	1.59	▲ 10.6	79,232			0.8	30.0
8月	154	2.2	1.59	0.9	76,034	136.8	0.2	▲ 1.0	24.2
9月	167	2.4	1.58	▲ 6.4	77,915			▲ 9.5	34.7
10月	166	2.2	1.58	▲ 8.8	77,123			▲ 5.1	19.2
11月	151	2.2	1.57	▲ 15.2	73,523	143.7	▲ 2.7	▲ 2.0	23.8
12月	145	2.2	1.57	▲ 7.9	72,174			▲ 4.8	22.6
2020年1月	159	2.3	1.49	▲ 0.8	60,341			▲ 3.9	22.1
(令和2年)2月	159	2.4	1.45	▲ 7.7	63,105	137.7	0.4	▲ 0.3	26.8
3月	176	2.5	1.39	0.1	70,729			▲ 6.0	37.4
4月	189	2.6	1.32	▲ 10.1	69,162			▲ 11.1	17.2
5月	198	2.9	1.20	▲ 20.9	63,839	126.6	▲ 7.9	▲ 16.2	14.7
6月	195	2.8	1.11	▲ 22.4	71,101			▲ 1.2	21.4
7月	197	2.9	1.08	▲ 17.9	70,244			▲ 7.6	23.9
8月	206	3.0	1.04	▲ 17.0	69,101	131.2	5.6	▲ 6.9	19.7
9月	210	3.0	1.03	▲ 1.5	70,186			▲ 10.2	29.3
10月	215	3.1	1.04	▲ 1.2	70,685			▲ 1.9	25.3
11月	195	2.9	1.06	1.3	70,798	143.3	1.9	▲ 1.1	25.3
12月	194	2.9	1.06	18.7	65,643			▲ 0.6	24.3
2021年1月	197	2.9	1.10	▲ 1.0	58,448			▲ 6.1	23.6
(令和3年)2月	194	2.9	1.09	39.8	60,764	136.2	▲ 0.3	▲ 6.8	26.2
3月	188	2.6	1.10	▲ 5.4	71,787			▲ 6.2	38.4
4月	209	2.8	1.09	14.7	74,521			▲ 13.0	21.0
5月	211	3.0	1.09	41.1	70,178	135.7	0.4	▲ 11.6	19.3
6月	206	2.9	1.13	35.5	76,312			▲ 5.1	23.4
7月	191	2.8	1.15	43.9	77,182			0.7	23.4
8月	193	2.8	1.14	20.6	74,303	133.3	▲ 0.4	▲ 3.0	20.6
9月	192	2.8	1.16	12.6	73,178			▲ 1.9	20.5
10月	183	2.7	1.15	28.3	78,004			▲ 0.6	17.6
11月	182	2.8	1.15	24.7	73,414	144.0	1.2	▲ 1.3	21.9
12月	171	2.7	1.16	17.6	68,393			▲ 0.2	21.8
2022年1月	185	2.8	1.21	20.0	59,690			▲ 6.9	20.7
(令和4年)2月	180	2.7	1.22	▲ 16.8	64,614	137.4	▲ 0.7	▲ 1.1	21.3
3月	180	2.6	1.22	14.3	76,120			▲ 2.3	32.7
4月	188	2.5	1.23	25.4	76,294			▲ 1.7	17.8
5月	191	2.6	1.27	13.2	67,193	137.7	1.4	▲ 0.5	16.1
6月	186	2.6	1.27	15.7	74,596			▲ 3.5	19.7
7月	176	2.6	1.29	4.8	72,981			▲ 3.4	21.4
8月	177	2.5	1.32	6.5	77,712	134.9	▲ 0.4	▲ 5.1	17.9
9月	176	2.6	1.34	7.9	73,920			▲ 2.3	24.2
10月	183	2.6	1.35	▲ 5.7	76,590			▲ 1.2	21.1
11月	182	2.5	1.35	▲ 4.6	72,372	146.3	0.1	▲ 1.2	22.1
12月	171	2.5	1.35	▲ 4.7	67,249			▲ 1.3	20.9
2023年1月	197	2.4	1.35	▲ 11.7	63,604			▲ 0.3	22.9
(令和5年)2月	194	2.6	1.34	▲ 1.5	64,426	142.8	0.7	▲ 1.6	26.9
3月	188	2.8	1.32	▲ 7.6	73,693			▲ 1.9	37.8
4月	188	2.6	1.32	▲ 12.5	67,250			▲ 4.4	21.9
5月	191	2.6	1.31	▲ 4.2	69,561			▲ 4.0	20.6
6月	186		1.30		71,015				25.9

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)